

会派注目！ 決算内容

日本共産党議員団

コロナ禍でも税収増、国からの交付金などで、約39億円の黒字決算となり、「何にでも使える」財政調整基金は約60億円に積み上がっています。

来年度の予算ではこの基金活用などにより、市長が約束した住宅リフォーム・宮クーポン事業の予算増をはじめ、物価高騰で苦しい市民と事業者の支援充実、宮バス・宮タクの抜本的改善による公共交通充実、学校給食費無償化への一步踏み出しによる子育て支援と地域経済振興、医療・介護の市民負担軽減、市の非正規職員の処遇改善による官民全体の賃金底上げ牽引などに一層の努力を望みます。

決算全体は評価しつつ、「議会の意思」である「附帯決議」を結果として無視するやり方で進めた「郷土史博物館基本構想策定事業」は市民の理解を得られておらず、決算を認めることはできません。来年度以降、基本構想の見直しを含め、市民参加と情報公開の徹底をどう進めていくかについて、市は明確な方針とスケジュール案を示す必要があります。



富岳会

コロナ禍でありながらも健全財政ともいえる黒字化は評価します。ただ、逆に捉えると生活が苦しい方たちに、その分のサービスを提供することができたにも関わらず、実行できなかった事があるとも言えます。

また、病院事業会計も民間では儲からず診療を受けることを諦めている人にも、適切な医療環境を提供する役割を持つ市立病院では、若干の赤字を覚悟してでも市民サービスに全力を注いでもらいたいと思います。

(仮称) 郷土史博物館検討事業については「附帯決議」での可決であったため、より慎重な執行を望みましたが、充分とは言えず今後の進捗では、更なる慎重さを求めます。

ふるさと納税額も堅調ながら人気商品に偏りがあるという事は良い事ながらも危険性をはらんでいることを当局には認識を新たにしてもらい、今後も新たな人気商品の開拓、広報を広めて貰いたいと思います。

予定どおりの予算執行、コロナ禍での難しい舵取りを含め財政に余裕を持たせながら執行したことを評価できる決算内容でした。



▲富士宮市の人気ふるさと納税返礼品のトイレットペーパー

公明会

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な事業の中止や延期、また感染症対策と市民、事業者に対する支援が求められる年度でした。

一般会計、特別会計の実質収支額前年度対比で、約18億円の増加。実質単年度収支額は約24億円の黒字でありました。

ふるさと納税を含む寄付金が約28億円、前年度対比で約12億円の増加とセールスの頑張りにより目を見張ります。次年度実施予定の市民の交流拠点、市民文化会館リニューアル工事実施設計策定業務の進捗に期待します。また、プレミアム付商品券事業約3億円は市民に好評であり、一定の経済効果を得られたと考えます。

病院事業会計が、新型コロナウイルス病棟の開設等も起因して約4千万の純利益となり前年度対比で約2億5千万円収支を増加することができ、評価します。

この先、少子高齢化、人口減少、コロナ対策、社会保障、自然災害への対応、公共施設の老朽化対策等々、着実に課題を当局と一体となって乗り越えて行きたいです。

